

共同研究・受託研究・バーチャル研究室等課題名：物質循環型野菜生産技術の開発
研究代表者（所属）：北宅義昭（大阪公大・研究推進機構）

発表タイトル：人工光型植物工場でのイチゴのアクアポニックスに関する基礎研究

○松井陽和¹，和田光生¹，中村謙治²，西口正幸³，多湖信弘⁴，遠藤良輔¹，江口雅丈⁵，北宅義昭⁵

所属： 1 大阪公大・農学研究科， 2 エスペックミック(株)， 3 (株)大和真空， 4 (株)アクア， 5 大公大・研究推進機構

キーワード（5ワード程度）：ニジマス，溶存酸素濃度，pH，果実品質，果実収量，培養液中無機養分濃度

要 旨（300文字程度）

人工光型植物工場において，野菜の水耕と魚類の養殖を組み合わせたアクアポニックスに関する研究を進めおり，これまでの研究でレタスとドジョウを組み合わせたアクアポニックスでは安定的な生産が可能となっている．さらに，より高い収益性への要望に応じるために，現在，イチゴを用いた研究を行っている．ここでは，栽培適温の低いイチゴに同様に冷涼な気候を好むニジマスと組み合わせたアクアポニックスを行い，植物体の生育，果実の収量と品質および培養液中の無機養分濃度の変化について調べた結果を報告する．